



## の剪断耐荷性能\*

### Shear Capacity of CFT Column and Precast Wall Structure

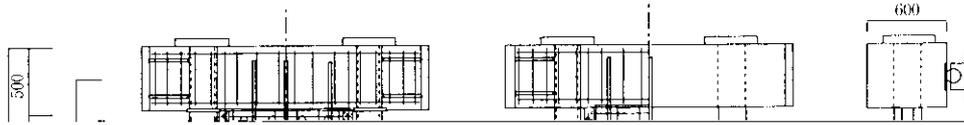


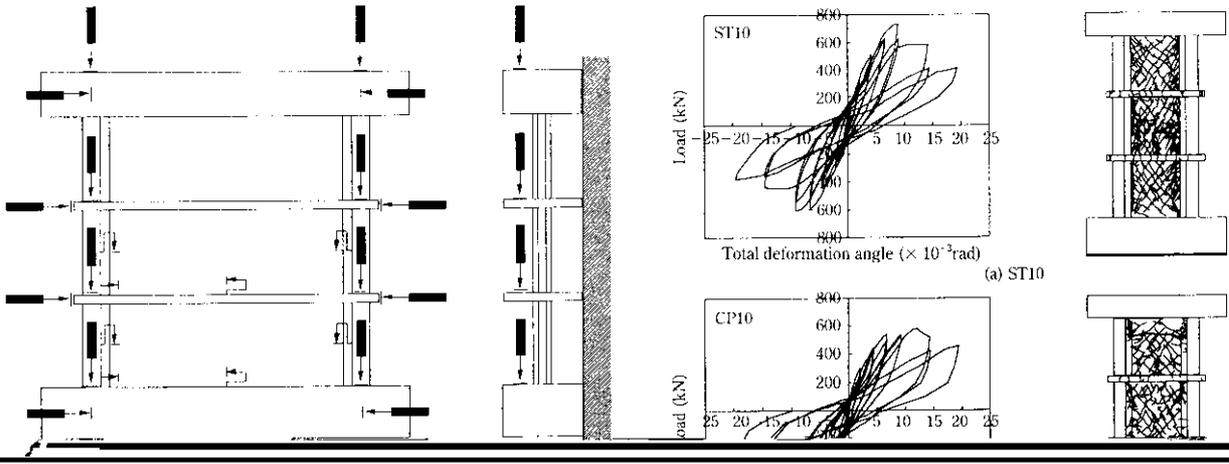
#### 要旨

中高層集合住宅を対象に開発した CFT-PCa 耐震壁構造は、柱にコンクリート充填鋼管柱 (CFT) を用い、戸境壁にプレキャスト鉄筋コンクリート耐震壁 (PCa 耐震壁) を用いている。3 層縮小モデルによる繰り返し曲げ剪断実験を、壁に埋め込んだプレート梁と柱との接合部の隙間をコンクリートで充填したタイプと、定着筋を溶接した T 形鋼を壁に埋め込んで柱のガセットと T 形鋼をボルト接合



めた後、隙間は同じく型枠を組んで、スラブと同時にコンクリート  
を打設して固める。図は完成した状態を示している。





張降伏し始める。

(5) CP30

ST30と同様に、 $1 \times 10^{-3}$ で剪断クラックが観察され、 $5 \times 10^{-3}$ で通し筋が降伏し始める。その後、 $10 \times 10^{-3}$ で接合部が降伏し始める。

#### 4.4 接合部挙動

##### 4.4.1 離間変形

図4.4.1は、図4.4.1の図に示す接合部を離間させたときの離間変形を示している。

れた。その後、 $7.5 \times 10^{-3}$ で通し筋が降伏し始め、 $10 \times 10^{-3}$ で

関係を示している。これらを見れば、 $2.5 \times 10^{-3}$ 程度の、変形の小さい

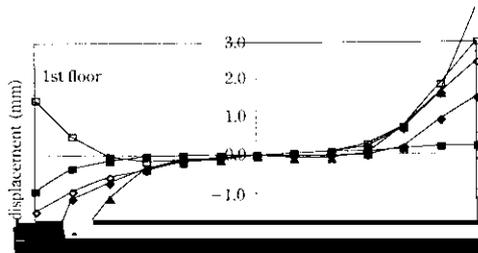
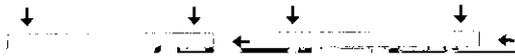


Table 4 Initial stiffness and cracking strength

	Initial stiffness		Exp. Cal.	Cracking strength Qscr (kN)
	Exp. (kN/cm)	Cal. (kN/cm)		
ST10	666	874	0.76	198
CP10	689	873	0.79	197
CH10	698	897	0.78	216
CP10	689	873	0.79	197



$$+ \tan \theta (1 - \beta) t_w \cdot l_w a \cdot \alpha_1 \cdot \alpha_2 \nu F_c / 2 \dots \dots \dots (6)$$

